

**令和6年第1回姫路市議会定例会（未定稿）**

**令和6年3月1日（金）**

**○岡部敦史議員（登壇）**

日本維新の会、岡部敦史と申します。

通告に基づき、3項目について質問させていただきます。

1項目めは、新美化センターについて質問させていただきます。

姫路市では、新美化センター建設候補地として旧南部美化センター跡地が選定され、今年度中にも、地域の皆様の理解を得た後に建設用地として決定し、これからの施設整備計画がいつそう加速されることと存じます。令和14年度の稼働に向けて、整備基本計画など様々な準備を市はされているかと思えます。

現在、姫路市にあります施設の処理方式は、市川美化センターではストーカー式、エコパークあぼしではシャフト式ガス化溶融炉など、特色を生かしながら日々稼働されています。

そこで質問です。

現在、ゴミ処理施設の処理方式は、より環境に配慮した処理施設として、多くの自治体にて電気を発電したり、排熱を利用したり、CO<sub>2</sub>を利活用したりなど、多くの技術を用いた処理施設が活躍されています。

新美化センターを整備するに当たり、ゼロカーボンシティを目指すという姫路市のテーマに沿った計画を付加することは検討可能でしょうか。

以上で、第1項目の質問とさせていただきます。

**○三輪敏之議長**

福田農林水産環境局長。

**○福田宏二郎農林水産環境局長**

令和5年3月策定の姫路市新美化センター整備基本構想におきまして、循環型社会・脱炭素社会の形成に寄与する施設を整備基本方針の1つとしております。

新美化センターの建設予定地を決定した後、令和6年度から整備基本計画の策定に向けた検討を進める予定であり、熱エネルギーを最大限活用した発電や余熱利用のほか、焼却に伴い排出される二酸化炭素の有効活用など脱炭素技術の導入について検討し、ゼロカーボンシティの実現に寄与する施設整備を行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

**○三輪敏之議長**

17番 岡部敦史議員。

**○岡部敦史議員**

ありがとうございます。

エコパークあぼしをはじめ、他の自治体でも温浴施設を複合施設として活用したり、発電のみならず排熱利用を行うことで隣接したビニールハウスの温度管理、さらにはビニールハウスで育てている作物にCO<sub>2</sub>を吸収させて作物の活性化を行うことで収穫量を増やすなど、コージェネレーションならぬトリジェネレーションを導入している施設も最近では出てきております。

新美化センターの整備に当たり、エネルギーのよりよい活用、ひいては地域住民の方々にも親しまれる設備の検討などは計画されておりますでしょうか。

**○三輪敏之議長**

福田農林水産環境局長。

**○福田宏二郎農林水産環境局長**

本市のエコパークあぼしにおきましても、余熱を利用した温水プール、温浴施設を備えた健康増進センターを併設しており、周辺地域にお住いの方をはじめ、多くの皆様に利用される施設となっております。

また、二酸化炭素の回収と有効利用に関する先進的な取組についても、情報収集に努めております。

新美化センターの整備に当たりましても、地域住民の意見や建設予定地の特性、周辺の状況などを考慮しながら、エネルギーを有効に活用でき、なおかつ地域の皆様に親しまれる施設となるよう検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

**○三輪敏之議長**

17番 岡部敦史議員。

**○岡部敦史議員**

ありがとうございます。

来年度より新美化センター整備基本計画の検討が進められていくかと思えます。これからの20年、40年先を見越した新美化センターの在り方としまして、防災についても、整備基本計画の策定に当たり検討していただくことはできませんでしょうか。

今年になりまして能登半島にて震災があり、近々起きるであろうと予測されている南海トラフ地震など、姫路市としても、防災についてはLIFEをテーマと標榜されている以上、無視できない課題であると考えられております。

先日、福田農林水産環境局長が防災の拠点として検討す

る予定との答弁をお聞きしましたが、災害時、電力が止まってしまった際でも、ごみ処理を継続することにより発電することで、新美化センターより電力の供給、蓄電池提供によるWi-Fi環境の早期復旧、EV車の充電など、市民の皆様のために災害支援ができますよう、防災の拠点としましての多面的な意味での利活用を計画、検討していただくことはできますでしょうか、お答えください。

○三輪敏之議長

福田農林水産環境局長。

○福田宏二郎農林水産環境局長

国の廃棄物処理施設整備計画におきましては、社会インフラとしての機能を一層高め、地域に新たな価値を創出する廃棄物処理施設の整備が求められています。

また、姫路市総合計画ふるさと・ひめじプラン 2030 基本構想におきましても、災害等に強いまちづくりの推進を政策の1つとして掲げております。エネルギーを創出し、災害時に活用できる施設づくりは、安全な生活の基盤づくりを図る上で特に重要な視点と考えております。

安定したごみ処理を継続するため、耐震性を備え持ち、災害時にも熱エネルギーを利用した電力供給が可能なおみ処理施設を災害時の防災拠点として活用することは、他都市でも採用されている合理的な活用方法であることから、整備基本計画の策定に当たり、ぜひ検討していきたいと考えております。

以上でございます。

○三輪敏之議長

17番 岡部敦史議員。

○岡部敦史議員

ありがとうございます。

姫路市の未来のために、本当に必要な20年後、願わくば30年後にもあってよかったと言えるような施設となれますようお願いしております。

続きまして、2項目めの質問に移らせていただきます。

姫路獨協大学の活性化について質問させていただきます。

現在、姫路市では、北保健センター、こどもの育み支援センターを開設することとなっております。

その際に、中央保健センター北分室を姫路獨協大学内に移転し、従来の相談に加え既存の保健管理センターを拡充するとのことでしたが、姫路獨協大学には、看護学部、医療保健学部、薬学部など、診療に関わる施設や専門家の先

生、有資格者のスタッフの存在、学生さんの研修など、既存のリソースを活用した様々な利便性が発生するのではないかと考えております。

今回の北保健センター開設での取組は、子どもの育み支援だけではとどまらず、検診や高齢者の相談なども含め、まだまだ活用できる可能性が非常に高いのではないかと考えております。

そこで質問ですが、今回の寄附講座の開設に当たり、より多くの可能性を今後、姫路市としても展開していくためにも、医学部系の寄附講座を作り、また、はり姫にありません研究施設なども活用していくことは、連携としての展開は可能でしょうか。

○三輪敏之議長

峯野健康福祉局長。

○峯野仁志健康福祉局長

新設の北保健センターは、市北部における保健事業の拠点として、現行より機能を拡充し、新たに乳幼児健診などを実施する予定でございます。

加えて、姫路獨協大学に設置する寄附講座との一体的運用により、仮称こどもの育み支援センターを開設し、発達相談や検査、リハビリテーションまでを一体的に提供するとともに、長期にわたるフォローアップを実施する予定でございます。

一方で、獨協学園姫路医療系高等教育・研究機構では、姫路獨協大学と連携した研究が現在進められておりまして、新たな展開につきましては、連携状況に応じて必要な対応をしてみたいと考えております。

以上でございます。

○三輪敏之議長

17番 岡部敦史議員。

○岡部敦史議員

ありがとうございます。

医師の方が連携できます形となりますと、診療所としての機能もより大きくなるかと考えております。地域診療としての拠点として、今回の一体的運用は、姫路市の医療、検診、相談、検査、福祉医療、リハビリ、服薬指導など、多くのサービスを提供できる場として活躍していかれるかと思っております。

診療所として大学内に設置し、市が運営していくことは可能でしょうか。

○三輪敏之議長

峯野健康福祉局長。

○峯野仁志健康福祉局長

仮称こどもの育み支援センターにつきましては、その事業内容から、医療法上の診療所として開設する必要がございますが、いわゆるクリニックとして一般の患者様の診療は予定しておりません。

一方で、姫路獨協大学には学内診療所がございますので、こちらとは密接に連携してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○三輪敏之議長

17番 岡部敦史議員。

○岡部敦史議員

先ほどの質問にもありましたが、能登半島での地震をはじめ、これから起きるであろう南海トラフ地震を考えると、市民の皆様が安心安全に日々が過ごせますよう、LIFEをテーマとしている姫路市としましては、防災についても取り組んでいかなければならないと考えます。

今回の北保健センターの開設に当たり、地域医療の拠点としまして共同した組織として発展することはできますでしょうか。検討の余地はあるかお答えください。

○三輪敏之議長

峯野健康福祉局長。

○峯野仁志健康福祉局長

姫路獨協大学におきましては、保健師及び看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など、多数の医療系人材が育っており、また実習室などの設備も整っております。

議員ご提案のとおり、災害時においてこれらの資源を活用することは、市民の安全安心につながるものであると考えております。

今後、姫路獨協大学との新たな連携を進める中で、人的資源や設備を活用させていただくことも検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○三輪敏之議長

17番 岡部敦史議員。

○岡部敦史議員

ありがとうございます。

北部地域の拠点として、また将来的な展望としまして、立地的にも近い自衛隊とも連携した、姫路市ならではのまちづくりができますよう、未来の可能性、助けることのできる命をより多く守っていけます施設となりますよう願

っております。

それでは、次の項目に移らせていただきます。

最後の質問となりますが、姫路市立高校の在り方について質問させていただきます。

姫路市は、現上市立高校の再編を進めております。統合新設校を含め3校が合併していく流れの中で、再編されていく際の学生さんたちのカリキュラム、教育システムなどについてご質問させていただきます。

市立高校では、それぞれの高校に、国際文化科、健康福祉、探究科学など、子どもたちの専門性、可能性を育むカリキュラムがあります。

市立ではありませんが、姫路飾西高校ではSTEAM探究科などの新しい学科が生まれ、これからの時代に想定される課題を解決していく能力を育む教育が求められているのではないかと僭越ながら考えております。

Society 5.0時代といった生活や産業構造の改革に伴う対策、将来の生き方や社会との関わりについて、子どもたちにはよりよい学習ができる環境、機会を我々大人は提供していかなければならないのではないかと考えております。

そこで質問です。

姫路市教育委員会につきましては、令和8年度の統合新設校の開校に向けて準備を進めておりますが、これからの市立高校につきましては、どのように運営していくのか、計画や方針についてお答えください。

○三輪敏之議長

西田教育長。

○西田耕太郎教育長

これからの市立高等学校について、どのように運営していくのか、計画や方針についてということでございますが、現在、令和8年度の市立高校再編に向けて、市立3校の教職員と教育委員会事務局による検討委員会を中心となり、検討を進めております。

令和6年度からは、市立高等学校の一体感の醸成や多様な交流による学びの充実を図るため、市立高等学校つながりプロジェクトを開始いたします。

また今後、3校の良好な教育環境を確保するため、学校行事や部活動の合同実施等を進めるとともに、統合新設校の学びを検討する中で、探究活動に関する取組を先行して実施するなど、生徒の主体的な学習活動を支援してまいります。

統合新設校におきましてはキャリアセンターを設置し、生徒が自らの人生を主体的に選択できるよう、生徒の興味関心や将来の進路に合った学習活動への支援、また、豊かな学校生活を実現するための活動相談等を行っていく予定でございます。

以上でございます。

**○三輪敏之議長**

17番 岡部敦史議員。

**○岡部敦史議員**

ご回答ありがとうございます。

1校による強みを生かしていくとのことでしたが、高校生という年代は自分の将来について考えていく時期ではないかと考えております。

単位制を導入するとお聞きしておりますが、多様な進路に合わせた幅広い選択科目の充実は、キャリア教育を含めたこれからの教育として可能性のある取組ではないかと考えております。

単位制を導入されるとのことで、今までの市立高校とどのように変わっていくのか、お答えください。

**○三輪敏之議長**

西田教育長。

**○西田耕太郎教育長**

統合新設校では、単位制を導入することで、これまでよりも幅広い科目を選択することが可能となります。

カリキュラムの内容としましては、探究学習を要素とした、教科をより深く主体的に学ぶことを目的とした科目や生徒が幅広い視野を持つことができる教養科目などを現在検討しております。

また、授業におきましては、教科横断的な学びとして、クロスカリキュラムの実践や外部連携による指導など、多様な視点や経験を得る機会を創出してまいりたいと考えております。

以上でございます。

**○三輪敏之議長**

17番 岡部敦史議員。

**○岡部敦史議員**

ありがとうございます。

探究の時間を導入することによる高校生の学習機会の充実は、学校以外にあります。現実の社会を知ってもらうことについても、意義があるように感じました。

クロスカリキュラムの導入、eラーニング、ICT教育

も含め、これからの時代に即した教育の質の充実を高め、また、子どもたちがより明るい未来となりますような高校となりますようお願いしております。

こちらは要望ですので、答弁は必要ありません。

以上で、私の質疑を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

**○三輪敏之議長**

以上で、岡部敦史議員の質疑を終了します。